

ちょうそ が べ もとちか し こくとういつ
(5) 長宗我部元親の四国統一

四国の統一 元親は、1563年に本山氏をほろぼしてのち12年間で土佐の国を統一しました。

元親は、自分の所領よりも多い所領を持っていた豪族たちをたおし、父国親が世話になったことのある一条家も追放して、土佐の国の主となったのです。

元親をたすけて、いさぎよく戦ったのは、一領具足といわれる農民兵たちでした。戦のないときには、田畑を耕し、合間を見ては武芸の練習にはげみ、戦になれば武装して戦場へかけつけるのです。

元親は、土佐統一の戦いをすすめながら、手がらをたてた家来や一領具足たちに土地をあたえなければなりません。しかし、土佐の国は、山が多く耕地になる土地も少なかったのです。

元親は、新しい土地を手に入れたと考え、1575年四国の統一

をめざしました。阿波（徳島県）への出兵をはじめとし、苦戦をしながらも讃岐（香川県）に軍をすすめ、ついには伊予（愛媛県）も統一しました。こうして、土佐統一後10年たった1585年の春、元親は四国を平定したのです。

元親軍に侵略された国々では、お寺や家をやかれたり、田畑をふみあらされたことなどを今でも語り伝えているそうです。

長宗我部元親像



はだ ぞう 秦神社蔵（高知県立歴史民族資料館寄託）



いちのみやじょう
一宮城の合戦（想像図）

A. Takima

もとらか せいはいりやく
元親による四国制覇 略年表

西暦	できごと
1560	5月27日、国親（元親の父）が、高知市長浜の浦土（浦戸）城を落とす。元親初陣。
1563	美濃の国（現在の岐阜県）斎藤氏の娘と結婚。
1569	安芸国虎をせめ、矢流の合戦で安芸城を落とす。
1575	渡川（現在の四万十川）の合戦で、一条氏をほろぼし、土佐の国を統一する。
1576	南伊予に出兵する。
1578	阿波（現在の徳島県）の白地城を落とし、この後、白地を活動の中心地として、阿波・讃岐をせめる。
1580	春、讃岐に出兵し、中讃岐を支配する。
1582	中富川（徳島県）の戦いで、三好軍を破り、阿波の国を統一する。
1585	伊予（愛媛県）の河野氏を降伏させ、その他の伊予の武将たちも次々と元親に降伏する。四国を統一する。

◎一宮城の合戦（解説）

秀吉軍は、10万5000とも12万3000ともいわれる軍勢を率いて、阿波、讃岐、伊予の三方からせめてきた。迎えうつ長宗我部軍は、およそ4万の軍勢であったといわれる。兵力を分散させながら戦った長宗我部軍は、次々に城をおとされていった。一宮城は、鮎食川の南岸に位置し、阿波の国の重要なとりででもあった。この一宮城での攻防が勝敗を大きく左右すると考えた豊臣方は、城にトンネルをほったり、水の手を絶つなどして、長宗我部方を降伏させた。

ひでよし
元親・秀吉の関連についての略年表

西暦	できごと
1585	春、元親、四国全土を統一する。 5月8日、秀吉が羽柴秀長に四国征伐を命じる。
	8月6日、元親軍が秀吉軍に敗れる。
1586	9月、元親・信親、秀吉の九州征伐に加わる。 12月13日、九州の戸次川の合戦で信親が戦死する。
1587	9月26日、長宗我部検地始まる。
1588	元親、岡豊城を出て、大高坂に移る。
1590	元親軍が、秀吉の小田原攻撃に加わる。
1591	元親、居城を浦土城に移す。
1592	元親父子、秀吉の朝鮮出兵に従軍する。
1596	8月26日、浦土にスペイン船サンフェリペ号が漂着する。（この事件は、後に秀吉のキリスト教徒の迫害へと発展する。） 元親、秀吉軍に加わり朝鮮に出兵する。
1599	元親、京都の伏見で亡くなる。
1615	元親の子、盛親のひきいる長宗我部軍は、大坂（大阪）夏の陣において、豊臣方に味方して戦う。豊臣方は戦いに敗れ、盛親も処刑され、長宗我部氏がほろびる。